

## 情勢報告

## 一億円プレーヤーを作る産地づくりを学ぼう！ ～安芸集出荷場総合部会～



栃木県の普及指導員岩本氏の講演に  
聞き入る参加者

11月25日、安芸集出荷場園芸研究会総合部会が、栃木県下都賀農業振興事務所の岩本普及指導員を講師に招き「一億円プレーヤーを生み出すトマト産地の取り組み」を学ぶ研修会をＪＡ土佐あき安芸集出荷場会議室で開催しました。参加者は、当研究会生産者35人と県内他産地の生産者・普及指導員46人の計81人で、湿度制御による病害抑制効果や厳寒期の適正葉面積管理について熱心な質疑が行われました。

農業改良普及課は、研修会の企画に協力して産地再生の実績と環境制御の最先端の取り組みの紹介を提案し、研修会が実現しました。今後も農業改良普及課は先進地事例や先端技術の情報提供を行い、魅力ある部会活動を支援していきます。

## 田野町新規就農者が農業技術センターと先進農家ほ場で視察研修



高軒高ハウスで高所作業車の説明を  
熱心に聞き入る新規就農者

11月28日に田野町担い手協議会が先進技術視察研修を開催し、新規就農者4人が参加しました。農業技術センターでは品種の育成や環境制御技術等試験研究の最新の状況を学び、先進農家ほ場では栽培管理で特に気を配っていることや増収を狙ったナスの密植2条2本仕立ての取り組み等について研修しました。

参加者は現在の生育状況を情報交換し、管理上の疑問点を研究員や先進農家に熱心に質問し、活発な意見交換ができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して新規就農者の確保・育成を支援していきます。

## ハウス内の環境を思いどおりに制御しよう！ ～芸西地区で勉強会を開催～



ハウス内の環境改善についての講習を聴く  
生産者

11月28日、芸西地区担当のＪＡ営農指導員と農業改良普及課が協力して、芸西地区の環境制御技術導入1年目の生産者を対象にＪＡ土佐あき芸西支所2階会議室で、環境制御技術勉強会を開催し、生産者14人が参加しました。

農業改良普及課は、温度、炭酸ガス、湿度などの環境の変化に対する植物の反応や炭酸ガスの施用量を給油量から把握する方法などを説明しました。

また、熱心に環境制御技術に取り組んでいる生産者2人の体験談の発表があり、参加者からは栽培管理に関連した時期別の炭酸ガス濃度や温度管理について質問がありました。

今後も農業改良普及課は、ＪＡと連携し、環境制御に取り組む生産者を支援します。

## 情勢報告

## ナスを作りゆうがは男性だけやないさね！ ～穴内女性ナス勉強会～



栽培管理の説明を熱心に聞く女性生産者ら

11月30日、ＪＡと農業改良普及課が穴内地区の女性ナス生産者を対象に勉強会を開催し、女性生産者16人が参加しました。

勉強会は、炭酸ガス施用を実践している芸西村の生産者と株式会社アグリード土佐あきのは場で開催し、栽培管理について意見交換を行いました。特に環境モニタリング装置に興味を持つ生産者が多く、パソコンの画面を見ながら「なんでこの時間はこんな管理しゆうが？」といった活発な質問がありました。農業改良普及課は、収穫や摘葉時の作業改善を提案しました。

農業改良普及課は、今後も定期的に女性生産者の勉強会の開催を支援し、地域農業の活性化に努めます。

## 病害対策は予防が基本！ ～芸東集出荷場ナス部会が現地検討会～



薬剤散布はまんべんなくお願いします！

12月15日、芸東集出荷場ナス部会が現地検討会を開催し12人の生産者が参加しました。

今回は東洋地区のは場3カ所を巡回し、自分のは場と見比べながらかん水量、施肥量、病害対策について活発な意見交換をしました。

室戸支所からは芸東地区で被害が増加しているナスフザリウム立枯病、黒枯病対策の説明と、東洋地区ではまだ導入されていない「炭酸ガス施用機」を用いた栽培実証結果等の情報提供を行い、環境制御技術への関心を高めることができました。

室戸支所は今後も基本栽培管理や病虫害対策及び環境制御技術を普及していきます。

## 産地の取り組みをＰＲ ～芸西園芸研究会が関西市場担当と意見交換～



市場担当者と意見交換する生産者

12月8～9日にかけて芸西園芸研究会の生産者7人が大阪・京都の市場を訪問し、関西5市場の関係者との販売会議を行いました。会議ではナス・ピーマンの販売状況に関する情報交換と他産地の生産物とＪＡ土佐あきの品質や規格について意見交換をしました。

参加者は他産地との規格の違いやバイヤーのニーズ、今後の販売見込みについて熱心に質問していました。

同行した農業改良普及課は、産地が実践する天敵利用を柱としたＩＰＭ技術や安全・安心への取り組みを紹介し、市場からバイヤーへのＰＲを要請しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して研究会の活動と産地ＰＲを支援していきます。

## 情勢報告

## ナスの品質向上推進協議会幹事会の開催



ナスの品質向上推進協議会の様子

12月12日、園芸連、J A土佐あき営農課・営農企画課・販売課、集出荷場、農業改良普及課がJ A土佐あき本所に集まり、ナスの品質向上推進協議会幹事会を開催しました。

会議では、産地ビジョン“次世代につなぐナス産地の再構築”を達成するための推進計画の協議、重点モデル農家への指導の進捗状況の報告及び今後の指導方向について協議し、実施項目ごとの責任者を決め計画的に取り組んでいくこととなりました。

農業改良普及課は、推進計画を着実に実践できるよう支援し、産地ビジョンの達成に向けて取り組んでいきます。

## 100 年続く集落営農の仕組みとは？ ～講演会を開催～

集落の課題や今後の推進方向について  
楠本氏と熱心に議論を交わす参加者

11月29日に、J A土佐あき奈半利支所で集落営農塾（組織化）の講演会を開催し、管内の集落営農検討集落、集落営農組織及び関係機関18人が参加しました。

農業改良普及課から高知県と安芸管内の集落営農の推進状況を説明しました。また、農山漁村地域経済研究所の楠本雅弘所長から、全国の取り組み事例や法人化について講演いただきました。

「若者を雇用でき、地域の担い手として活動を継続していくためには、法人化が不可欠である」との講演を聞き、参加者からは「組織化に向けて地域で話し合いを進めたい」「法人化に向けて取り組んでいく」等の前向きな意見が多く聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して集落営農塾（組織化）を継続して開催し、安芸地域で集落営農の組織化に向けた話し合いが進んでいくよう支援します。

## 東洋町郷土料理「こけらずし」づくりに若者が挑戦



「こけらずし」づくりに挑戦中

11月23日、東洋町生見地区集会所で県と東洋地区農漁村女性グループ研究会の主催で郷土料理講習会を開催し、「こけらずし」づくりに挑戦しました。

当日は生見地区内外から30代を中心に女性20人の参加があり、「こけらずし」の伝承人（グループ研究会員）から、いわれや作り方を講習してもらいました。

参加者からは「嫁いで20年になるが初めて作った」「家でも作ってみたいがすし型がない」「技術をつないでいきたい」等意欲的な意見が出され、関心の高さがわかりました。

農業改良普及課は、当日の実施計画や資料づくりをコーディネートし、講習会の運営が円滑にできるよう努めました。今後も郷土料理の伝承活動を支援していきます。